



木造文化と森林循環



シンポジウムモデレーター：吉野 博（東北大学総長特命教授）

第一部「木造デザインのあるべき姿」

基調講演1：野沢 正光（野沢正光建築工房／JIA環境会議議長）

Masamitsu Nozawa（Masamitsu Nozawa Building Workshop / Chairman JIA Conference of Environmental Design）

第一部パネルディスカッション 安井妙子（建築家／安井妙子あとりえ）

木曾善元（建築家／木曾善元建築工房／JIA 東北支部）

野沢正光の木造論をきっかけに、様々な技術が氾濫する日本において、木造や木質デザインのあるべき姿について語り合う。

第二部「木材を基本とした循環型社会への道」

基調講演2：小島 孝文（林野庁木材産業課 課長）

Takafumi Kojima（Director, Wood Industry Division, Forestry Agency, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries）

第二部パネルディスカッション 天野智将（森林総合研究所東北支所）

板垣直行（秋田県立大学教授）

木材供給サイドの実情と、森林認証、流通認証など東京五輪をきっかけとした林業の体制づくりの可能性について議論し、林業を基本とした資源循環や新しい生活像（森林都市）などについて思いを馳せる。

第一部、第二部及び会場を交えた合同クロストーク

第一部、第二部で提示された事実や夢を踏まえて、木材循環全体を俯瞰して自由に議論する。

日時：2015年12月10日(木) 15:00～19:00 懇親会 19:00～20:00（CPD 認定プログラム申請中）

場所：仙台メディアテーク1階大ホール（館内禁煙）定員 300 名（申し込み先着順）

参加費：1000 円 懇親会参加費：1500 円

主催：公益社団法人日本建築家協会(JIA)、環境会議・国際交流委員会 後援：住まいと環境 東北フォーラム

協賛：ジャパン建材株式会社、株式会社キーテック、秋田グルーラム株式会社、物林株式会社、株式会社 宮盛

頻発する異常気象のニュースに触れるたびに、気候変動がいよいよ顕在化してきたのではないかと懸念されます。そして今後は温暖化対策として、ゼロエネルギー建築やプラスエネルギー建築などの環境建築が急速に普及するだろうと予想されます。しかし、たとえプラスエネルギー建築であっても、建設時には多量の温室効果ガスを発生させるため、温暖化対策が短期的には温暖化を促進することになりかねません。しかし唯一木造建築だけが、建築内部に二酸化炭素を固定し、材料となる樹木の伐採後に植林された若木が二酸化炭素を吸収するという形で、地球の炭素循環にモロトリアムを作り出し、環境への負荷が少ない温暖化対策を行える特性を持っています。木材で作る環境建築は、地球環境対策の切り札とも言えます。しかし木材を使えば必ず地球環境対策として有効だと言う事ではありません。日本には様々な木造技術や木材製品が溢れていますが、中にはせっかく木材を使っているのに環境対策になっていないと思われる物や、使い方の優先順位が違ふと思われるものがあります。木材の使い方にも見識が求められます。また木材の供給側においても、一部の途上国のように、環境や植林に配慮しない伐採が、森林とその周辺環境を破壊して莫大な温室効果ガス排出につながる例もあります。これを防止する為に森林認証があります。日本は森林大国であるにも関わらず、林業が健全な産業として成立しておらず、認証林も僅かです。2020年の東京オリンピック・パラリンピック施設では認証材が要求される事になると予想されるので、これが日本の林業の体質改善の機会になるかもしれません。今回のセミナーでは、木材利用と木材供給の2極から議論をはじめ、日本の木材を軸とした循環型社会の現実を知ると共に、今なすべきことや将来の可能性について、多角的に議論したいと思います。木材利用側の基調講演に我々JIA環境会議議長の野沢正光氏を、供給側の基調講演に林野庁林政部木材産業課長の小島孝文氏を迎え、行動の契機になるセミナーにしたいと思います。

講師紹介

野沢正光：建築家。野沢正光建築工房代表。東京藝術大学美術学部建築科卒業。大高建築設計事務所を経て現職。現在武蔵野美術大学客員教授、横浜国立大学工学部・法政大学大学院デザイン工学研究科非常勤講師他。JIA 環境会議議長。多くの環境建築設計実績があり、木造建築の設計経験豊富。OMソーラーのデザイナー側の推進者としても有名。主な建築作品に、「熊本県和水町立三加和小中学校(2013)」、「愛農学園農業高等学校(2013)」、「立川市庁舎(2010)」、「いわむらかずお絵本の丘美術館(1999)」など、主な著書に「地球と生きる家」、「住宅は骨と皮とマシンからできている」、「環境と共生する建築」などがある。木の建築関係の受賞多数。その他JIA環境建築賞最優秀賞、省エネルギー建築賞、マロニエ建築賞、エコビルド大賞、グッドデザイン賞など受賞多数。

小島 孝文：林野庁林政部木材産業課長。昭和62年農林水産省入省。東京大学(農)卒。

モデレーター紹介

吉野博：(東北大学総長特命教授 / 前建築学会会長)：東京大学大学院工学研究科修了。東京大学生産技術研究所助手、東北大学工学部建築学科助教授、教授を経て現職。この間、湖南大学(中国)顧問教授、同濟大学(中国)兼任教授、東北大学ディスティングイッシュド・プロフェッサー(3年間)など歴任。「建築環境工学」に関する研究を専門とする。日本学術会議会員。空気調和・衛生工学会理事・同東北支部長、日本雪工学会会長・理事、人間生活環境学会理事、日本臨床環境学会副理事、ASHREA Fellow, 日本サステナブル建築協会会長、第4次IPCC報告書Lead Author、日本建築学会会長などを歴任。日本建築学会賞、建築学会東北支部東北建築賞業績賞、空気調和・衛生工学会賞(6回)、空気調和衛生工学会井上市市賞など受賞。

パネリスト紹介

天野智将：(研)森林総合研究所東北支所森林資源管理研究グループ長。岩手大学農学部林学科卒業。木材流通、林業経営を専門とする。北海道、東北での勤務が長く、苗木の生産から木材の伐採、利用、家具、木工など実態調査を重ねている。

板垣直行：秋田県立大学教授。東北大学工学部建築学科卒業、同大学大学院修了、工博。東北大学助手、秋田県立大学準教授等を経て現職。建築材料学、木質材料、木質構造が専門。半剛接架構を用いた木造軸組構法の開発、秋田杉を用いた内装の特性と室内空間に与えるイメージに関する研究、地域生産型木造住宅の生産過程における環境評価、耐火軸組み構法等を研究。

木曾善元：建築家。木曾善元建築工房主宰。東北工業大学建築学科卒業。メック・デザイン・インターナショナル、針生承一建築研究所を経て現職。東北文化学園建築科非常勤講師。東北地域に根差し、木造建築設計の実績が多く、地産材の活用等にも知見を持つ。秋田の住宅コンクール最優秀賞など受賞。雄湯郷・森林につながる家づくりネットワーク副代表。JIA 東北支部会員。

安井妙子：建築家。安井妙子あとりえ主宰。通常の建築とは異なる対応が求められる古民家の再生に対して、断熱気密構造補強を施し、現代のニーズに耐える再生の設計監理を行う。『第4回サステナブル住宅賞』にて「改修部門 国土交通大臣賞」受賞。

御挨拶：辺見 美津男(JIA東北支部長、建築家:辺見美津男設計室) / セミナー趣旨説明: 白江龍三(JIA環境会議、環境建築家) 袴田 喜夫(JIA環境会議副委員長、建築家:袴田喜夫建築設計室)



お申し込み方法

お名前、所属、ご連絡先(電話番号又はメールアドレス)を明記の上、下記にメール又はファックスにてお申し込み下さい。

(公社) 日本建築家協会 本部事務局
北沢将司 (Shoji Kitazawa)
Fax 03-3408-7129
Mail skitazawa@jia.or.jp

お問い合わせ

JIA 館4階 Tel 03-3408-7125 北沢
JIA ホームページ：<http://www.jia.or.jp>

本イベントは後日 YouTube に UP されます。